

内科学（第一）

研究可能テーマ

研究可能テーマ	研究指導者	受け入れ可能院生数
<p>(1)慢性アレルギー性肺疾患および間質性肺炎におけるマスト細胞トリプターゼの役割 慢性好酸球性肺炎、特発性間質性肺炎といった病態の発現およびその増悪過程において、マスト細胞より産生・遊離されるトリプターゼがいかなる役割を果たしているかを明らかにする。上記の実験病態モデルを用い、気管支肺胞洗浄液のトリプターゼ活性を測定するとともに、組織所見との関連、アンチプロテアーゼの効果などを検討する。</p>	<p>玉置教授 近藤准教授</p>	<p>2</p>
<p>(2)呼気中一酸化窒素が気道炎症の増悪に果たす役割の解明 気道炎症の急性増悪における一酸化窒素の役割を明らかにするため、肺胞マクロファージを用いて誘導型一酸化窒素合成酵素の遺伝子発現を検討し、遊離を測定する。また、呼気中一酸化窒素濃度が副腎皮質ステロイド、マクロライドなどによって受ける影響を検討し、気道炎症のバイオマーカーとしての可能性について明らかにする。</p>	<p>玉置教授 近藤准教授</p>	<p>2</p>
<p>(3)気道粘液分泌の調節機構に関する実験的研究 気道上皮培養細胞あるいはモルモットを用い、Th2サイトカインの添加あるいは卵白アルブミンで感作の後に抗原チャレンジを行い、杯細胞増生、ムチン（MUC5AC）産生、ムチン遺伝子発現などを評価する。また、マクロライドおよびその誘導体による粘液分泌抑制効果とその作用機序を解明する。</p>	<p>玉置教授 武山准教授</p>	<p>2</p>
<p>(4)実験的肺傷害動物における病態の解明と各種薬剤 LPS投与によって惹起される肺傷害を気管支肺洗浄により回収した細胞あるいは洗浄液の各種サイトカインを測定し、また組織においては<i>in situ</i> hybridization法を用いて接着分子等の発現を検討する。また、各種のinhibitorのこれらの肺傷害に対する効果を検討する。</p>	<p>玉置教授 多賀谷准教授</p>	<p>2</p>
<p>(5)肺細胞と炎症細胞のアポトーシス 生体のホメオスターシスを維持するアポトーシスの制御機構を細胞レベルで明らかにする。培養気道上皮細胞、血管内皮細胞あるいは線維芽細胞、またヒト好中球を用い、蛍光染色法によりアポトーシスを検出し、ウェスタンブロット法により細胞内シグナル伝達を検討する。</p>	<p>玉置教授 武山准教授</p>	<p>2</p>
<p>(6)肺の気腫化・線維化の機序に関する実験的研究 肺細胞でのiNOS遺伝子発現の意義や他の遺伝子発現調節との関連については未解明の点が多いが、NOは肺の気腫化・線維化への関与が強く示唆されている。肺気腫モデルや肺線維症モデルを作製し、慢性肺疾患の成因を分子生物学的手法によって検討する。</p>	<p>玉置教授 武山准教授</p>	<p>2</p>